

せかいぷちりょう

氏名：安達 祐佳

学校名：大阪市立大宮小学校

時間数：全 8 時間

対象学年：1 年

人数：80 名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標		
・他の国と日本の暮らしには、相違点があることを知る。 ・他国の文化・遊び・生活を知る。 ・自分たち（日本）の暮らし・生活を振り返る。		
【2】 単元の評価 規準例	(ア) 知識・技能	・地球には、たくさんの国があり、それぞれに違う文化があることに気付くことができる。 ・他国の子どもたちに伝えるために自分たちの日本の生活についての絵日記を書くことができる。
	(イ) 思考・判断・表現	・日本と他国の暮らしの中で違うところや同じところを見つけることができる。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	・日本以外の国の文化や暮らしについて知ろうとする。
【3】 単元設定の理由	本校には、外国にルーツがある児童が 5 人在籍しており、児童全体の 1%を示している。また、大阪市内でも外国籍の人口の割合が増加傾向にあり、令和 2（2020）年 12 月末現在、大阪市内には 143 の国や地域を出身とする 144,123 人の外国人住民が居住し、全市民のうちの約 5.3%を占め、人口・比率とも政令指定都市の中で最多となっている。（大阪市 HP より引用）国語科、道徳科の中でも外国のことが取り入れられるようになった昨今、多くの児童が今後、外国籍の方と接することが予想される。 本校の高学年の児童は、SDGs の一貫として某企業の活動に参加し、不要になった衣服を寄付する活動やユニセフ募金活動などに取り組んでいるが、1 年生児童にとっては、行動そのものは理解できても途上国がどのような状況なのか理解するのは難しく、外国に触れる学習機会もまだまだ少ないのが現状である。 今回、アジア近辺国の学校や生活の様子の写真や映像教材として用い、日本との相違点を考えていく。また、国際機関日本アセアンセンターによるプログラム「小学校向け ASEAN 出張授業」を通じて出前授業を依頼し、より各国の現状を児童たちに知ってもらおうようにする。その上で気づいたことを交流したり、他国の遊びを体験したり学びを深めていく。他国の暮らしや文化を知った後、最後の第 7 時では、外国の子どもたちに向けて自分たちの日本の学校や家での日常生活を振り返り、絵日記を書く。 はじめに多文化国家であり、国際色が強く日本と繋がりが強いインドについて学習を進めていくことで日本と文化と比較しやすいのではないかと考えた。より低年齢の間に、自分たちが暮らしている国以外の暮らしや文化を知り、体験することで「日本と外国は違って当たり前」という感覚を身に付け、外国にルーツがある人とも分け隔てなく接することができるようになることを願う。また、その後は中学年や高学年の外国に関わる学習にも繋げていきたい。	
✓ 児童観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童の変容		

【4】展開計画（全 7 時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	○ 学習課題を掴む。 ・ 国によって、肌の色や服装が違うことに気付くようにする。	・ オリンピックの開会式の写真を見て気づいたことを話し合う。	・ 地球儀 ・ 写真 ・ パワーポイント
2・3 本時	○ インドの暮らし・文化について考える。 ・ それぞれの国に文化があり、その国の人にとって自国の文化が当たり前であるということに気づくようにする。	・ 写真や映像を見て、日本と同じところ（似ている）・違うところを見つけ交流する。 ・ 日本とインドの繋がりを考える。	・ 地球儀 ・ パワーポイント ・ 写真 ・ みんぱっく
4	○ インドの遊びを体験する。 ・ 鬼ごっこに似ていることに気付くようにする。 ・ 外国には、日本にない遊びがあることを知る。	・ カバディで遊ぶ。	
5	○ インドネシア・フィリピン・シンガポールの小学校の様子を知る。 ・ 同じ小学校でも、国が変わると違うところがたくさんあることに気付くようにする。	・ ASEAN 出前授業を受講し、他国の文化を知り、気づいたことを交流する。	・ 資料
6	○ 日本で暮らすブラジルの子どもの気持ちを考える。 ・ 言葉が通じなくとも外国の人と関わることや友達になることができることに気付くようにする。	・ 道徳科の教材「学校へ いくとき」（1 年「生きる力」より）を使用し、言葉が通じない友達がいたら、どのように接するのが良いか考える。	・ 道徳科教材
7	○ 自分たちの暮らし（日本）を絵日記に書く。 ・ 他国の子どもたちにも絵日記を見てもらうということを促し、意欲を持つ。	・ 学校・遊び・生活でのできごとを振り返る。	

【5】本時の展開

目標：国ごとに、文化や生活様式があることを知り、日本との相違点を考えることができる。

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 10分	○ インドの暮らし、建物、街並みを知り、気づいたことを発表する。 ・ インドの写真を見て日本と比べる。 ・ めあてを確認する。 めあて：インドの暮らしを見て気づいたことを交流しよう。	・ 肌や髪の色、服装が違うことに気づくようにする。 ・ インドの写真を見ながら、日本と比べて似ているところと違っているところに気付くようにする。 ・ 日本以外の国に興味・関心を持てるようにする。	・ 教師が用意した写真
展開 20分	○ インドと日本の繋がりについて考える。 ・ 日本とインドのカレーを比べる。 ・ インドクイズ ○ インドの文化を体験する。 ・ みんぱっくを用いて、インドの服や日用品に触れる。 ・ サリー ・ 食器 ・ アクセサリー ・ 文房具 など ○ それぞれの国に、挨拶の仕方があることを知る。 ・ 絵本の読み聞かせ	・ カレーがインド発祥の食べ物であることを知り、日本との繋がりに気付くようにする。 ・ 外国から色々な食べ物やスポーツなどの文化が来ていることを気づくようにする。 ・ インドの文化を知ることができるようになる。 ・ 世界には、たくさんの国があり、それぞれに文化や暮らしの在り方があることを知る。 ・ 日本にあるものと似ているやそうでないものがあることに気づくようにする。 ・ 挨拶にも国の文化があることに気づくようにする。	・ クイズ ・ ワークシート ・ みんぱっく（国立民族博物館による貸出用学習キット）
まとめ 15分	○ 気づいたこと、感じたことをワークシートに記入し、交流する。 ・ 振り返りをする。	・ 次回、インドの遊び「カバディ」をすることを伝え、さらに外国への意欲を高めるようにする。	・ 絵本「世界のあいさつ」長新太 ・ ワークシート

【授業実践の様子】

《みんぱくによるインドの生活体験》



食器



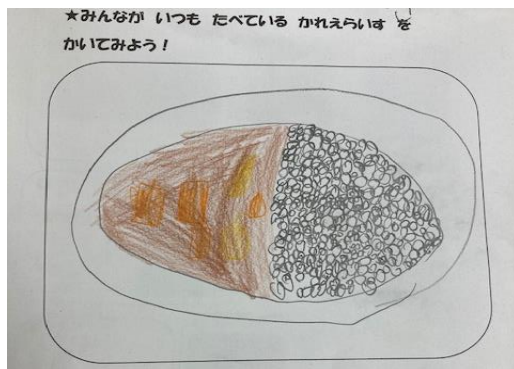
アクセサリー



雑誌・本



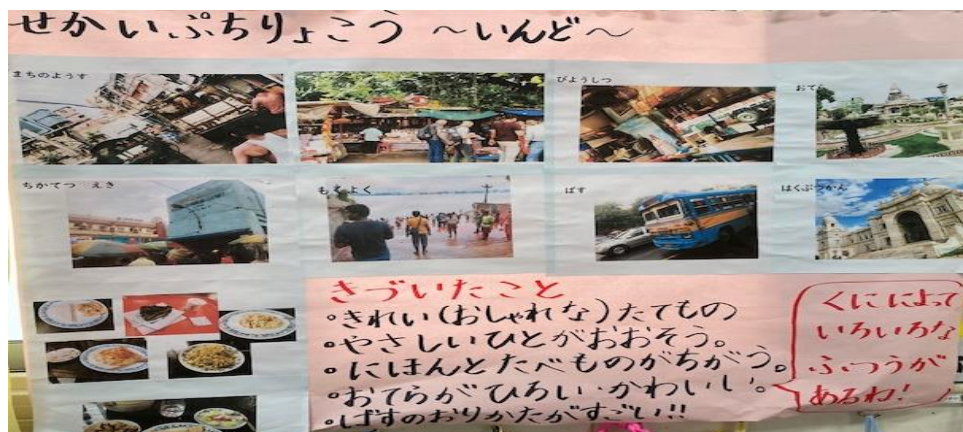
サリー・その他服



《日本とインドのカレーを比べてみよう》



《インドクイズ》



《本時の学習をまとめた側面掲示》

【6】 本時の振り返り

第1時にオリンピックの開会式の写真を見て、世界の人々のちがいに触れた後の本時であったので、少しずつ外国に興味を持ち出している様子が伺えた。

学習のはじめに「今日は、インドにプチ旅行に行くよ！」と声をかけると、「インド知ってる。」「どんな国なんだろう。」などと期待を膨らませていた。

つぎに、インドの博物館やお寺、バス、料理など様々な写真を見て日本と比べ、インドの挨拶「ナマステ」を練習した。そして、文化という言葉は1年生にとって難しいと感じたので、「それぞれの国に挨拶があり、生活の中に当たり前がある。」ということ伝えた。すると、児童たちは「かわいそうなんじゃなくて、それが当たり前なんだね。」「日本の当たり前とインドの当たり前は違うね。」と違いを受け止めることができたように感じる。

インドの文化体験では、サリーやアクセサリーを見て「うわあ。可愛い。」と大喜びしていた。日頃、自分たちが使っている食器や楽器とは雰囲気はずいぶん違ったので、初めて見るものに大興奮の様子だった。

学習の最後に、各国の挨拶について絵本を読み聞かせると、「挨拶でキスするの。」「手にツバかけるの。」など日本の挨拶との違いに驚いていた。それでも、「それが当たり前なんだね。」「いろいろな国があるね。」と多文化を少しずつ理解しているようであった。

【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

《単元の最後の振り返り》

- ・インドネシアの旗と日本の旗が似ていた。
- ・フィリピンの海が綺麗で食べ物も美味しそうだった。
- ・もっとほかの国の洋服や家のことを知りたい。大人になったら遊びに行きたい。
- ・インドネシアのじゃんけんが楽しかった。
- ・私は、インドネシアの食べ物や学校での遊びをもっと知りたいです。他の国の挨拶を知れて良かった。
- ・シンガポールのカラフルなケーキを食べてみたい。外国の街がすごかった。
- ・家族と一緒に外国の食べ物を食べてみたい。
- ・シンガポールのマーライオンを初めて見た。
- ・インドのカレーとナンを食べてみたい。
- ・インドのナンと日本のカレーと一緒に食べてみたい。
- ・ブラジルは、日本と朝と夜が反対なのがびっくりした。
- ・外国の公園のことをもっと知りたい。
- ・インドの服（サリー）が可愛かった。
- ・ほかの国の自転車を知りたい。
- ・インドネシアにドラゴンがつく名前の動物がいておどろいた。
- ・コロナが終わったらフィリピンに行きたい。
- ・インドネシアの肉料理が美味しそうだった。
- ・インドのサリーを着てみたい。・色々な国の先生とお話したり勉強したりできて嬉しかった。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

小学1年生は、まだまだ自分のことに一所懸命な時期なので学習のはじめの頃は、外国と聞いても特に興味を示さなかった。この多文化共生の学習を行っていく中で最初は、日本以外の国の写真を見せると「おもしろい。」「かわいそう。」「なんか変。」など率直な意見であったが、学習を進めていく中で「それが普通。」という感覚に変わっていくのを感じた。



《ASEAN 出前授業の様子》



また、ASEAN 出前授業を通じて外国（インドネシア・シンガポール・フィリピン）のゲストティーチャーと実際に交流できたことで、児童たちの海外への興味関心が増したように思う。外国の人と話すことができたり、勉強を一緒にしたりしたことが大きな励みに繋がったようだ。

外国の学習を終えたあと、今度は日本の暮らしを外国の友達に伝えるための日記を書く活動を行った。テーマは、日本の日常に困んだ内容で「好きなあそび」「日本の食べ物」「日本の挨拶」「友達と遊んだこと」「家族との思い出」とした。自分たちが暮らす国の文化に気づいた上で、日本と外国どちらの文化も尊重できるようにしていきたい。



《日本での暮らしをテーマにした日記》

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

（授業前）

第一印象としては、外国に興味がある児童が多くないように感じた。児童たちに知っている国を尋ねると、すぐに名前が出てきたのが「アメリカ」や「中国」ほかにもヨーロッパ各国など、先進国や近隣の国もしくは、自分が好きなスポーツ選手がいる国の名前が多く出た。

（授業後）

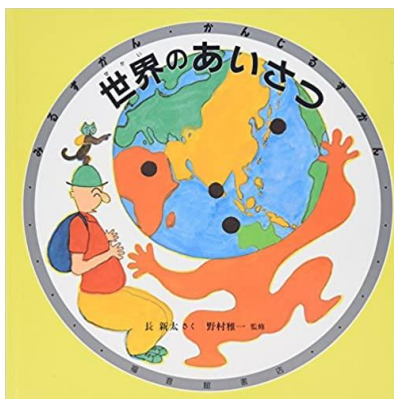
日本以外にもたくさん国があり、そこでの言語や文化があることに気づき、以前より外国により興味を持つようになった。

朝の英語タイムでは、「ほかの国でも、英語タイムあるのかな。」「インドネシア語タイムがあるかもしれない。」という会話が飛び交ったり、国語科の時間には、「日本では国語の時間がたくさんあるけれど、他の国でもその国の学習をたくさんするのかな。」と疑問を持ったりするなど自然と外国を意識する場面が見られた。

【8】自己評価

1. 苦勞した点	1年生にとって「文化」という言葉の理解が難しく言い換えに戸惑った。「その国それぞれの当たり前や普通、約束があるんだよ。」と色々な例えを加えながら伝えたが、正しく児童たちが理解することができるような説明だったのか少々心配が残る。
2. 改善点	体験活動を重視したので、時間に余裕がないと取り組むのが厳しいと感じた。どの学校でも実践しやすくするためには、内容をまとめてコンパクトに授業を組み替える必要がある。
3. 成果が出た点	上記の授業後にも記載した通り、児童たちが外国を少しずつ意識するようになったことに成果を感じている。学年が上がる中で、国語科、社会科、総合の中で外国に関連した内容は増えてくる。いきなり外国と日本の産業の繋がりや、環境問題、途上国の貧困問題などの学習内容に入るのではなく、低学年のうちに興味関心を持つことで外国を少しでも身近に感じることができるようになることも1つの手立てだと思う。
4. 備考（授業者による自由記述）	「違いを受け止める」ということは、多文化共生に限らずとても大切なことである。昨今、外国籍や特別支援学級に在籍する児童が増加傾向にあり、またそのほかにも、家庭や心、学習面に課題を抱える児童がほとんどである。その中で、互いの違いを追求し責めるのではなく、それを受け止めあうことができるようになればと思う。一人ひとり違う人間なのだから違って当たり前ということを伝えていきたい。

添付資料：



《世界のあいさつ》
長新太（1989 福音館書店）



《小学校道徳 いきるちから「学校へいくとき」》
（日本文教出版）



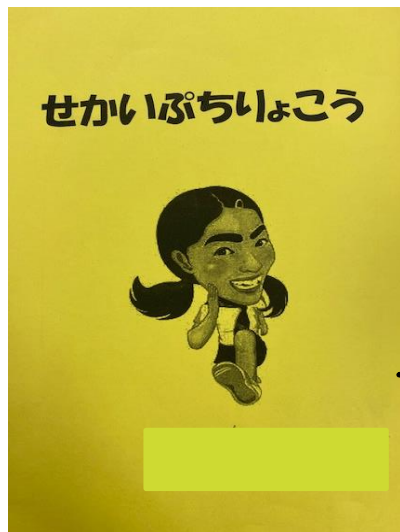
《インドの学習で用いたパワーポイント一部》



《地球儀を用いた学習》



《ASEAN 資料》



《「せかいぶちりょう」ポートフォリオ》

学習で活用したワークシートや資料を、添付していくことで1冊のポートフォリオを作成した。今回、主に学習してきたオリンピックのことやインド・インドネシア・シンガポール・フィリピンで自分たちが考えたことや振り返りが記されている。



おにごっこと似てるね！

「カバディカバディ」って言い続けるのがおもしろい。



その後の体育科の時間にも、「カバディがしたい！」と、カバディの楽しさに気づいた様子が見られた。

《第4時 カバディの様子》

参考資料：

- 「世界の国を知る 世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来 インド」(公財)愛知県国際交流協会
<http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/index.html> 2021年8月アクセス
- 「国立民族博物館 みんなつっくについて」国立民族学博物館
<https://www.minpaku.ac.jp/teacher/university/manual/minpack> 2021年9月アクセス
- 「ASEAN 出前授業」国際機関 日本アセアンセンター
<https://www.asean.or.jp/ja/exchange-info/20180502/> 2021年9月アクセス